

P-A-1

大阪大学附属病院入院患者における 機能性食品の使用実態アンケート調査

○井倉 技¹⁾, 松田 宙²⁾, 川本 弘一²⁾, 狭間 研至²⁾, 北川 透²⁾,
平井 啓³⁾, 上島 悦子⁴⁾, 越村 利恵⁵⁾, 伊藤 壽記¹⁾

- 1) 大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座, 2) 大阪大学大学院医学系研究科外科学講座
3) 大阪大学大学院人間科学研究科人間行動学講座, 4) 大阪大学附属病院薬学部
5) 大阪大学附属病院看護部

【目的】我が国においても補完代替医療の利用が急速に増大していると考えられているが、その実態は不明な点が多い。癌患者における補完代替医療の利用状況については最近いくつか報告されているが、地域や病院により特色があると思われる。そこで今回我々は当院消化器外科、消化器内科、内分泌代謝内科の入院患者に対して、補完代替医療として我が国で利用されていることの多い機能性食品に対する意識と使用状況について、アンケート形式にて調査を行った。

【結果】現在もアンケートの集計中であるが 160 名の解析では機能性食品の使用頻度は 68.8%であった。年齢 (60 歳未満 vs.60 歳以上)、病棟 (内科 vs.外科)、疾患 (良性 vs.悪性) の間では有意差はなかったが、性別では女性が 80.2%, 男性が 61.9%と女性が優位に高かった。機能性食品利用の目的は健康維持が 73.3%, 病気の改善が 44.8%, 栄養補給が 21.0%であった。効果に関しては 28.8%が効果あり, 3.9%が効果なし, 67.6%がわからないと回答した。副作用に関しては, あるが 5.3%, なしが 62.2%, 不明が 32.6%であった。また機能性食品の種類はキノコ類が 35.2%, ビタミン・ミネラル類が 22.9%, 乳酸菌製剤が 18.1%であった。医療従事者に相談しているのは 26.2%のみで, 購入の情報源は家族・友人の勧めが 59%と最も多く, 利用に際し十分な情報が得られたと回答したのは 31.6%にすぎなかった。機能性食品にかけの一ヶ月の費用は 1 万円以下が 61.4%と多く 3 万円以上は 12%と少数であった。

【結語】当院の検討でも十分な情報得られず, また効果が実感されなくとも利用頻度は 68.8%と高く, その多くは医療従事者に相談なく利用していた。今後は患者の利用状況を十分把握するとともに, 機能性食品利用に関するガイドラインを早急に作成する必要があると考えられた。